

全国肢体不自由特別支援学校P T A 連合会

第106号
(総会特集号)

平成24年10月30日発行

会 報

(発行)

全国肢体不自由特別支援学校P T A 連合会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目10番1号
(全国たばこビル内6階)
電話 (03) 6721-5710
F A X (03) 6721-5711
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

就任あいさつ

全国肢体不自由特別支援学校P T A 連合会

会 長 坂 ま す み

(東京都立光明特別支援学校P T A 会長)



平成24年の長野県で、長野大会前日に総会が行われました。その席上で、18代目の全国肢体不自由特別支援学校P T A 連合会(略 全肢P連)の会長に就任いたしました。坂ますみ(ばん ますみ)と申します。

前任の濱川浩子会長よりこの任を引き継ぎ、その責任の重さを痛感しているところです。本年は、信濃の国長野県に於いて、55回目の総会を迎えました。総会のご来賓として、全国特別支援教育推進連盟から、今年の5月に就任されました大南英明新理事長においでいただきました。

また、昨年に引き続き、日本肢体不自由児協会からは井田千昭常務理事がおいでくださいました。お二方にはご来賓として、ご挨拶をいただきましてありがとうございます。

長野大会では文部科学省、特別支援教育課の下山直人特別支援教育調査官から特別支援教育の動向についての

基調講演をいただきました。現在、中央教育審議会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」として、報告が示されています。

いままで以上に特別支援学校のセンター的な役割と指導力が求められます、私たち保護者は障害のある子どもたちがどこの場においても、命の尊厳とその成長を育むことを求めて行きたいと思います。教育システムは一度崩れてしまうと、これまで積み重ねてきた特殊教育から特別支援教育へと発展するための大事な理念が、安易な理解になってしまうのではと不安になります。ひとつひとつ丁寧要望し、社会全体の理解が進むことを願っています。

皆様と一緒に頑張っていきたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

『全肢P連安心保障制度』をお薦めしています。

全国肢体不自由特別支援学校P T A 連合会 会長 坂 ますみ

この保険は肢体不自由の子どもたちのため、また、その家族が安心できる保険がほしいとの保護者の声から生まれました。何度か内容を見直し、現在の保障内容になりました。

一人でも多くの子どもたちに役立てることができるよう願っています。

尚、お問い合わせ等は「全肢P連安心保障制度事務局」まで、お願い申し上げます。

(TEL) 0120-313-186 (FAX) 0120-090-027

営業時間 平日9:00~17:00 (土日祝日休業)

※平成24年4月に全肢P連加入校(207校)へ申し込み書類を送付しています。



ご挨拶

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
会長 杉野学
(都立多摩桜の丘学園校長)

全国の肢体不自由特別支援学校PTA連合会会員の皆様、はじめまして。

今年度、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会副会長並びに理事を仰せつかりました東京都立多摩桜の丘学園杉野学(全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長)です。

全肢P会長は、濱川会長から新しく坂会長に変わりましたが、坂会長と連携・協力しながら、この教育のますますの発展のために精一杯努力していきたいと思えます。また、全国大会、各ブロック大会等では、皆様のお力をお借りしながら、保護者・学校・地域・関係機関等との連携などについて、よりよいPTA活動の在り方を検討していきたいと考えています。

さて、この教育は大きな変革の時代を迎えています。今、国では障害者制度改革が進んでいます。障害者の権利に関する条約の批准・締結に向けた検討、障害者基本法の改正など、また、中央教育審議会初等中等教育分科会での特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告では、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進が示されています。

このような大きな変革のときに、この仕事を引き受けるのは、とても身の引き締まる思いです。私事で恐縮ですが、昭和53年に、初任で肢体不自由養護学校高等部担任として携わったのがこの教育との出会いのはじまりです。子ども達の明るい笑顔が大好きです。皆様、今後ともよろしく願います。

東日本大震災 《義援金報告》

全肢P連および各校から直接振り込まれた総額 608万5730円



東北地区特別支援学校肢体不自由教育校長会を代表して、岩手県立盛岡となん支援学校、鈴木長之校長先生から義援金についての報告をいただきました。

また、全肢P連義援金口座は平成24年8月17日をもって、閉めさせていただきます。皆様の温かいご支援に保護者一同感謝申し上げます。有難うございました。

私たち保護者は、今後も障害のある子どもたちのため一層の努力をして参ります。

平成24年度 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

《 総 会 》



《次 第》

日 時 平成24年8月19日(日) 16:00～:17:00

会 場 メルパルク長野 1階ホール

司会 本部事務局長 佐竹京子

1. 会長挨拶

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会
(東京都立墨東特別支援学校PTA会長)

濱川浩子

2. 来賓挨拶

全国特別支援教育推進連盟

理事長 大南英明氏

社会福祉法人日本肢体不自由児協会

常務理事 井田千昭氏

3. 新規加入PTA紹介等

佐竹京子

4. 議長選出

総会議長 中部地区 愛知県立名古屋養護学校

PTA会長 宇佐美裕司

〃 近畿地区 奈良県立明日香養護学校

校長 玉井良忠

5. 議事【総会議案の承認】

(1) 平成23年度事業報告

全肢P連会長 濱川浩子

(2) 平成23年度会計決算報告

事務局長 佐竹京子

(3) 平成23年度会計監査報告

監事(東京都立北特別支援学校 校長)

引間宗人

(4) 平成24年度新役員選出

全肢P連会長 濱川浩子

退任挨拶 濱川浩子

新代表挨拶 全肢P連新会長 坂ますみ

(5) 平成24年度事業計画(案)

全肢P連会長 坂ますみ

(6) 平成24年度会計予算(案)

事務局長 佐竹京子

(7) 表彰者の確認と顧問の推薦

全肢P連会長 坂ますみ

6. 議長解任

その他、諸連絡

平成23年度事業報告

1. 総会及び研究大会

平成23年8月20日(土)～22日(月)

於：パンパシフィック横浜ベイホテル東急

主 題

「子どもたちの一人一人のニーズに応じた特別支援教育・肢体不自由教育の取り組みおよび共生社会づくりの為、PTA活動はどうあるべきか」

(1) 基調講演(行政説明)

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

課長 千原由幸氏

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

特別支援教育調査官 下山直人氏

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課

課長 土生栄二氏

(2) 分科会「(新)子どもたちをとりまくネットワーク」

第1分科会「学校」 第2分科会「地域」

第3分科会「福祉」 第4分科会「労働」

第5分科会「医療」 第6分科会「機器」

(3) 会員研修

講演①「肢体不自由教育に求められる専門性

—各種学校(光明学校)から特別支援学校への継承と発展—」

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所企画部

統括研究員 長沼俊夫氏

講演②「みんなの力で みんなを支援」

聖路加国際病院 理事長 日野原重明氏

(4) 全体講評

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

特別支援教育調査官 下山直人氏

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課

障害福祉専門官 高木憲司氏

厚生労働省職業安定局高齢・障害者雇用対策部障害者雇用対策課地域就労支援室

障害者雇用専門官 吉岡治氏

2. 役員会

(1) 第一回 平成23年8月20日(土)

於：横浜市社会福祉センター会議室

(2) 第二回 平成24年1月19日(木)

於：都立墨東特別支援学校会議室

3. 会報の発行

(1) 第98号 平成23年4月 20,000部

(2) 第99号 平成23年7月 20,000部

(3) 第100号 平成23年9月 20,000部〈総会報告〉

(4) 第101号 平成23年10月 20,000部

(5) 第102号 平成23年11月 20,000部

(内9,000部JK A補助 神奈川大会特集号)

(6) 第103号 平成24年1月 20,000部

4. 全国心身障害児福祉財団事業【国庫補助事業】

《保護者研修会》

- 本部 24年1月19日(木) 94名
テーマ①「重度重複障害児のコミュニケーション学習等の支援」
講師 東京学芸大学(教育学博士) 教授 小池敏英氏
- テーマ②「特別支援教育の動向」
講師 文部科学省 特別支援教育課 特別支援教育調査官 下山直人氏
- 北・東ブロック 山形県立ゆきわり養護学校 8月29日(月) 72名
テーマ「福祉制度と福祉サービスの利用」
講師 山形県社会福祉事業団 鈴木一成氏
- 東京 都立あきる野学園 11月14日(月) 100名
テーマ「障がい者(児)理解啓発出張事業」
～互いの障がい理解のために～
講師 特定非営利活動法人レインボー 代表 両角美映氏

《ボランティア研修会》

- 関・甲ブロック 都立小平特別支援学校 24年1月13日(金) 37名
テーマ 東日本大震災における「障害者支援のコーディネート経験」
講師 社会福祉法人「イリアンソス」のぞみの家 施設長 磯部光孝氏
- 中部ブロック 富山県立総合支援学校 11月12日(土) 23名
テーマ「障がいのある方への接し方」
講師 元本校教諭 田口ほなみ氏

《親子ふれあいキャンプ療育事業》

- 中部ブロック 福井県立福井養護学校 8月20日(土)～21日(日) 40名
テーマ① 動作法の実技研修(2時間)
講師 愛知教育大学 准教授 森崎博志氏
- テーマ② 動作法の実技研修(1.5時間)
講師 愛知教育大学 准教授 森崎博志氏
- 中・四ブロック 香川県立高松養護学校 9月18日(日)～19日(月) 58名
テーマ① 子供たちとの関わりの中で
講師 理学療法士 泊博一氏
- テーマ② 人形劇とふれあい音楽体験
講師 障害児と共に歩む人形劇団すまいる
- 近畿ブロック 兵庫県立播磨特別支援学校 8月1日(月)～2日(火) 49名
テーマ ころとからだで感じよう！ふれあいとつながりを
講師 くらしき作陽大学 教授 橋本正巳氏

【社会福祉法人全国心身障害児福祉財団主催事業】

《障害児・者父母団体地域指導者養成研修会》

- 〔富山県富山市〕 9月16日(金)～17日(土)
富山県立富山総合支援学校PTA会長、PTA厚生部長参加
- 〔大分県別府市〕 7月8日(金)～9日(土)
大分県立別府支援学校PTA会長、副会長参加
- 〔新潟県弥彦市〕 10月14日(金)～15日(土)
新潟県立東新潟特別支援学校PTA会長参加
- 〔広島県広島市〕 24年2月17日(金)～18日(土)
広島県立広島特別支援学校PTA会長参加

5. 関係団体事業および行事等への参加

- (1) 関係各省庁への陳情および会議などへの参加要請
- 文部科学省 特別支援教育課へ
6月1日(火)後援・派遣依頼、9月15日(水)大会の御礼
 - 中央教育審議会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」へ委員として委嘱
第10回5月27日(金)、11回8月19日(金)、12回9月15日(木)、13回10月4日(金)、14回12月9日(金)、15回24年2月13日(月)、16回24年3月28日(水)
 - 合理的配慮等環境整備検討WG
第2回8月18日(木)ヒアリング 於：三田共用会館
 - 合理的配慮等環境整備検討WG傍聴出席
第4回9月14日(水)、5回10月24日(月)、6回11月28日(月)、8回24年1月13日(金)、9回24年1月20日(金)
 - 特別支援学校等における医療的ケアの実施に関する検討会へ委員として委嘱
第1回10月31日(月)、2回11月14日(月)
 - 冊子特別支援教育「座談会」収録
 - 厚生労働省 障害福祉課へ
6月1日(火)、9月15日(水)
 - 厚生労働省 雇用対策課へ
6月1日(火)、9月15日(水)
 - 内閣府「障害者週間」「障害者フォーラム2011」へ出席 12月2日(金)
- (2) 全国特別支援教育推進連盟理事会および行事等への参加
- 理事会 5月6日(金)、7月8日(金)、10月7日(金)、24年2月3日(金)
 - 第34回全国特別支援教育振興協議会
12月6日(火) 於：国立オリンピック記念センター
- (3) 社会福祉法人全国心身障害児福祉財団会議等への参加
- 父母連絡会議 4月27日(水)、7月4日(月)
 - 評議員会 5月30日(月)、24年3月27日(火)
- (4) 社会福祉法人日本肢体不自由児協会
「第30回日本肢体不自由児・者の美術展」常陸宮両殿下

のご臨席のもと開催、表彰式および作品鑑賞

12月8日(木) 於：川崎市民ミュージアム

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会賞の授与

(敬称略)

(絵画の部)

鹿児島県立鹿児島養護学校 小学部5年 田中 鈴那

(たなか すずな)

福岡市立今津特別支援学校 中学部2年 佐藤 侑希

(さとう ゆき)

●運営委員会 10月18日(火)

●審査会 10月18日(火)

●手足の不自由な子どもたち「はげみ」編集会議

5月16日(月)、9月6日(火)、11月29日(火)、

11月15日(土)、23年1月22日(土)

(5) 日本肢体不自由教育研究運営委員会および大会への参加

●肢体不自由教育冊子200号を祝う会 5月14日(土)

於：茗溪会館

総会および運営委員会 5月19日(土)、

運営会議 6月18日(土)、6月9日(土)、

7月10日(土)、9月11日(土)、10月15日(土)、

11月20日(土)、23年1月15日(土)、2月19日(土)

●第35回研究大会 8月8日(月)～9日(火)

於：代々木青少年オリンピックセンター

(6) 各地区主催の肢体不自由特別支援学校PTA・校長会
合同研究協議会等への参加

●都肢P連総会へ 5月19日(木)

歓送迎会へ 5月21日(土)

●関肢P連理事会へ

5月11日(水)、24年1月11日(水)

●関肢P連および校長会合同協議会(茨城大会)へ

7月29日(金)～30日(土)

●全国肢体不自由児者父母の会 50周年東京大会へ出席

●長野県稲荷山養護公開研究へ参加

●全国特別支援教育推進連盟事業「震災と障害のある子
供への支援」へ参加 於：都立永福学園

●第16代会長江本緑さんご家族(江本蒔衣さん 葬儀)
へ出席 7月17日(日)

6. 関係友好団体への後援等

○第35回日本肢体不自由教育研究大会

○平成23年度「第30回肢体不自由児・者の美術展」日本
肢体不自由児協会

○第44回全国肢体不自由児・者父母の会連合会東京大会
第48回関東甲越肢体不自由児者父母の会連合会東京大
会(全国肢体不自由児・者父母の会連合結成50周年記念
事業)

○平成23年度てんかんを正しく理解する月刊 協賛

「第34回てんかん基礎講座」協賛

○(社)日本てんかん協会 第38回全国大会(岡山大会) 協
賛

○平成23年度第47回関東・甲越地区肢体不自由特別支援
学校PTA会長総会及びPTA・校長会合同研究協議会

(茨城大会)

○第49回中部地区肢体不自由教育研究大会(愛知大会)

○全国訪問教育研究会第24回全国大会(埼玉)

7. 表彰者の確認と顧問の推薦

全国特別支援学校肢体不自由教育校校長会 前会長

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会 前副会長

(東京都立城北特別支援学校 前校長)

土井 富夫 様

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会「山形大会」実
行委員会

主管校(山形県立ゆきわり養護学校PTA会長)

會田 修 様

※規約の第16条、および細則の第5条によって、全国特別
支援学校肢体不自由教育校校長会前会長の土井富夫氏を顧問
に推挙する。

来賓あいさつ

全国特別支援教育推進連盟

理事長 大南 英明 氏



日本肢体不自由児協会

常務理事 井田 千昭 氏



平成 24 年度 全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会顧問名簿

氏 名	備 考
永 島 弘 子	平成 3 年度 会 長(東京都立北養護学校)
谷 口 篤	平成 8 年度～平成 12 年度 会 長(東京都立北養護学校)
佐 竹 京 子	平成 13 年度 会 長(国立筑波大学附属桐が丘養護学校)
木 村 知 鶴	平成 16 年度～平成 17 年度 会 長(東京都立小平養護学校)
江 本 緑	平成 18 年度～平成 19 年度 会 長(東京都立光明特別支援学校)
濱 川 浩 子	平成 20 年度～平成 23 年度 会 長(東京都立墨東特別支援学校)
中 島 秀 夫	昭和 54 年度～昭和 58 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立小平養護学校長)
三 浦 和	昭和 61 年度～平成元年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立光明養護学校長)
青 柳 勝 久	平成 4 年度～平成 5 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立北養護学校長)
鈴 木 峻	平成 6 年度～平成 8 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立光明養護学校長)
林 友 三	平成 9 年度～平成 11 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立北養護学校長)
今 里 勉	平成 12 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立光明養護学校長)
飯 野 順 子	平成 13 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立村山養護学校長)
能 瀬 廉 英	平成 14 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立光明養護学校長)
伊 東 光 雄	平成 15 年度～平成 16 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立光明養護学校長)
池 田 敬 史	平成 17 年度～平成 20 年度 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会長(東京都立あきる野学園校長)
土 井 富 夫	平成 21 年度～平成 22 年度 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会長(東京都立城北特別支援学校長)
三 室 秀 雄	平成 23 年度 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会長(東京都立光明特別支援学校長)
福 地 周 一	福岡市立今津養護学校元 P T A 会長

埜 野 兪	昭和 50 年度～昭和 53 年度 会 長(東京都立光明養護学校)	平成 20 年 4 月 27 日ご逝去
石 川 昌 次	昭和 59 年度～昭和 60 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(東京都立光明養護学校長)	平成 19 年 9 月 22 日ご逝去
早 瀬 俊 夫	昭和 47 年度 全国肢体不自由養護学校長会長(大阪府立堺養護学校長)	平成 19 年 6 月 23 日ご逝去

平成 23 年度 会計報告

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

〈収 入〉

平成 24 年 3 月 31 日 (単位: 円)

項 目	23 年度予算	23 年度決算	摘 要
前 年 度 繰 越 金	2,076,236	2,076,236	
会 費	7,252,400	7,252,400	204 校分担金(400 円× 18,131 人児童生徒数)
自 転 車 補 助 金	774,000	773,955	(財) J K A (大会特集号 1,032,000 円の補助)
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,203,300	別紙内訳
寄 付 金	0	0	
雑 収 入	600,000	933,778	保険手数料、オムツ手数料、利子等
合 計	11,922,636	12,239,669	

〈支 出〉

項 目	23 年度予算	23 年度決算	摘 要
会 議 費	800,000	530,809	大会 30 万、総会、役員会、その他会議
研 修 費	1,100,000	940,920	大会 60 万、大会参加費等、関係団体研修大会参加費等
会 報 費	2,000,000	1,439,340	98・99・100(総会)・101・102(大会)・103 号
分 担 金	139,000	139,000	推進連盟、日肢協美術展、日肢研
渉 外 費	100,000	81,500	他団体祝い金、周年行事出席、香典等
地 区 助 成 費	480,000	480,000	80,000 円× 6 ブロック
交 通 費	400,000	341,160	研修大会等交通費、一般交通費
通 信 費	1,000,000	850,689	電話、郵券、会報発送費、振込み料等
事 務 局 運 営 費	3,200,000	2,900,858	事務室使用料、事務作業費等 〈かたつむり〉派遣支払い
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,203,300	別紙内訳
事 務 用 品 費	330,000	213,252	封筒、消耗品、事務関係全般・他
備 品 費	500,000	173,363	パソコン関連(メンテナンス修理含む)・他
雑 費	50,000	17,280	貸し金庫使用料・他
予 備 費	605,636	0	
特 別 会 計	0	1,000,000	
次 年 度 繰 越 金	0	0	
合 計	11,924,636	10,311,471	

特別会計積立額	平成 22 年度	100 万
	平成 23 年度	100 万
	合 計	200 万

平成 23 年度 国庫補助事業内訳

項 目	23 年度予算	23 年度決算	実施ブロック
保 護 者 研 修 会	30,000	30,000	本部
	30,000	28,500	中部 (愛知県立ひいらぎ養護)
	30,000	30,000	東京 (東京都立墨東特別支援)
ボ ラ ン テ ィ ア 研 修 会	40,000	38,500	近畿 (大阪府立堺支援)
	40,000	37,000	中国・四国 (島根県立江津清和養護)
親 子 ふ れ あ い キ ャ ン プ 療 育 事 業	350,000	346,900	北海道・東北 (福島県立郡山養護)
	350,000	345,400	関東・甲越 (東京都立町田の丘学園)
	350,000	345,400	九州 (北九州市立北九州支援)
合 計	1,220,000	1,201,700	

※決算の差額は謝金等の税金分を引いたものです。

会計決算報告

上記の通り平成 23 年度の収支決算を報告いたします。

平成 24 年 3 月 31 日

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

会 長 濱 川 浩 子 ㊞

事務局長 佐 竹 京 子 ㊞

会計監査報告

監査を実施した結果、適正に処理されていることを認めます。

平成 24 年 5 月 20 日

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

監 事 杉 野 学 ㊞

監 事 坂 ますみ ㊞

小さ過ぎず、大き過ぎず、これまでにないサイズ

リフレ ベビー用より大きく
大人用より小さいサイズ

体重の目安 20kg～45kg
※体重はあくまで目安となります。
ヒップサイズ 50cm～80cm

簡単テープ止めタイプ 横モレ防止

New クロスフィット®テープ採用でしっかりフィット、はずれにくい!



股上がピッタリ

ベビー用おむつと大人用おむつの一番の差は「股上」。これまで「サイズが合わない」と思われていた方に、ピッタリのサイズです。

消臭ポリマー配合
臭いにも安心

※製品イメージ

リフレ はくパンツ®

ジュニア

ウエストサイズ
45cm～60cm

ふんわりやわらか
お肌にやさしい



- ゆったりソフトギャザー
- 股間スッキリ構造
- 横モレ防止ギャザー
- 全面通気性シート

消臭ポリマー配合
臭いにも安心

サンプル・宅配購入のご希望は まごころサポート ☎ 0120-062-055



株式会社 リブドゥーコーポレーション

〒541-0048 大阪市中央区瓦町1丁目6番10号
www.livedo.jp

平成 24 年度 全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会役員名簿

役職名	氏 名	所 属	ブロック	備 考
会 長	坂 ま す み	東京都立光明特別支援学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
副 会 長	杉 野 学	東京都立多摩桜の丘学園校長	関 東・甲 越	全肢長会長
〃	石 田 み き	東京都立永福学園(肢体不自由教育部門) P T A 会長	関 東・甲 越	都肢 P 連会長
〃	加 藤 正 則	秋田県立秋田きらり支援学校 P T A 会長	北海道・東北	ブロック長
〃	矢 野 め ぐ み	群馬県立二葉高等養護学校 P T A 会長	関 東・甲 越	ブロック長
〃	河 合 み ゆ き	愛知県瀬戸市立瀬戸養護学校 P T A 会長	中 部	ブロック長
〃	鈴 木 隆 平	和歌山県立南紀支援学校 P T A 会長	近 畿	ブロック長
〃	矢 野 昌 秀	広島県立広島特別支援学校 P T A 会長	中国・四国	ブロック長
〃	東 恩 納 マ リ	沖縄県立鏡が丘特別支援学校 P T A 会長	九 州	ブロック長
理 事	坂 ま す み	東京都立光明特別支援学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	杉 野 学	東京都立多摩桜の丘学園校長	関 東・甲 越	
〃	石 田 み き	東京都立永福学園(肢体不自由教育部門) P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	加 藤 正 則	秋田県立秋田きらり支援学校 P T A 会長	北海道・東北	
〃	大 日 向 邦 彦	秋田県立秋田きらり支援学校 校長	北海道・東北	
〃	矢 野 め ぐ み	群馬県立二葉高等養護学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	小 林 洋	群馬県立二葉高等養護学校 校長	関 東・甲 越	
〃	河 合 み ゆ き	愛知県瀬戸市立瀬戸養護学校 P T A 会長	中 部	
〃	佐 藤 隆	愛知県瀬戸市立瀬戸養護学校 校長	中 部	
〃	上 平 範 子	長野県稲荷山養護学校 P T A 会長	中 部	大会実行委員長
〃	中 原 順 治	長野県稲荷山養護学校 校長	中 部	大会主管校長
〃	鈴 木 隆 平	和歌山県立南紀支援学校 P T A 会長	近 畿	
〃	中 島 康 明	大阪府立岸和田支援学校 校長	近 畿	
〃	鈴 木 隆 平	和歌山県立南紀支援学校 P T A 会長	近 畿	次期大会実行委員長
〃	谷 嗣 弘	和歌山県立南紀支援学校 校長	近 畿	次期大会主管校長
〃	矢 野 昌 秀	広島県立広島特別支援学校 P T A 会長	中国・四国	
〃	松 本 剛 一	鳥取県立皆生養護学校 校長	中国・四国	
〃	東 恩 納 マ リ	沖縄県立鏡が丘特別支援学校 P T A 会長	九 州	
〃	兼 本 タ カ 子	沖縄県立泡瀬特別支援学校 校長	九 州	
評 議 員	中 島 早 苗	北海道拓北養護学校 P T A 会長	北海道・東北	
〃	高 橋 由 紀 子	北海道拓北養護学校 校長	北海道・東北	
〃	竹 中 久 美 子	千葉県立桜が丘特別支援学校 P T A 会長	関 東・甲 越	
〃	鈴 木 功	茨城県立水戸特別支援学校 校長	関 東・甲 越	
〃	高 山 俊 一	福井県立福井養護学校 P T A 会長	中 部	
〃	青 木 咲 子	岐阜県立希望が丘特別支援学校 校長	中 部	
〃	西 田 美 栄	奈良県立明日香養護学校 P T A 会長	近 畿	
〃	谷 嗣 弘	和歌山県立南紀支援学校 校長	近 畿	
〃	五 王 孝 一	徳島県立ひのみね支援学校 P T A 会長	中国・四国	
〃	川 田 人 包	徳島県立ひのみね支援学校 校長	中国・四国	
〃	小 松 み ど り	宮崎県立清武せいりゅう支援学校 P T A 会長	九 州	
〃	佐 藤 成 年	宮崎県立清武せいりゅう支援学校 校長	九 州	
監 事	藤 居 典 子	東京都立村山特別支援学校 P T A 会長	関 東・甲 越	都肢 P 連副会長
〃	佐 藤 正 一	東京都立城南特別支援学校 校長	関 東・甲 越	
事務局 長	佐 竹 京 子	全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会事務局内		
事務局 員	辰 濃 牧	全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会事務局内		

平成 24 年度事業計画

1. 総会及び研究大会

平成 24 年 8 月 19 日(日)～21 日(火)

於：メルパルク長野

主 題 「肢体不自由の子どもたちの一人一人の生きる力を育むために、P T A 活動はどうあるべきか」

- (1) 基調講演
- (2) 分科会「(新)子どもたちをとりまくネットワーク」
第 1 分科会「学校」 第 2 分科会「地域」
第 3 分科会「福祉」 第 4 分科会「労働」
第 5 分科会「医療」 第 6 分科会「機器」
- (3) 会員研修
- (4) 全体講評

2. 役員会

- (1) 第一回 平成 24 年 8 月 19 日(日)

於：メルパルク長野

- (2) 第二回 平成 25 年 1 月 17 日(木) 於：未定

3. 会報の発行

- 第 104 号 平成 24 年 4 月 20,000 部
 第 105 号 平成 24 年 9 月 20,000 部 (総会報告)
 第 106 号 平成 24 年 10 月 20,000 部
 第 107 号 平成 24 年 11 月 (20,000 部の内 8,000 部
 J K A 補助) (長野大会特集号)
 第 108 号 平成 24 年 1 月 20,000 部

4. 全国心身障害児福祉財団事業

【社会福祉法人全国心身障害児福祉財団主催事業】

《障害児・者父母団体地域指導者養成研修会》

全国 5ヶ所の予定

【国庫補助事業】

全国心身障害児福祉財団事業実施地区割り当て

年度	国 庫 補 助 事 業		
	保護者研修会 (3 回)	ボランティア 研修会 (2 回)	親子ふれあいキャンプ 療育事業 (3 回)
23	本部 北海道・東北 東京	関東・甲越 中部	中部 近畿 中国・四国
24	本部 中国・四国 東京	北海道・東北 九州	北海道・東北 関東・甲越 九州
25	本部 九州 東京	近畿 中国・四国	中部 近畿 中国・四国
26	本部 近畿 東京	関東・甲越 中部	北海道・東北 関東・甲越 九州

27	本部 関東・甲越 東京	北海道・東北 九州	中部 近畿 中国・四国
----	-------------------	--------------	-------------------

*当該年度の事業のブロック別分担は、定められた順番(上図参照)で進められており、ブロック毎に担当の学校を 4 月中旬頃に決定し、各ブロック事務局から本部事務局まで連絡をください。

なお、財団へ提出する書類が 5 月初めです、内定の段階でも実施校の連絡をお願いします。

5. 関係団体事業および行事への参加

- (1) 関係各省庁への陳情および会議などへの参加要請
- (2) 全国特別支援教育推進連盟常任理事会・理事会および行事への参加
- (3) 社会福祉法人全国心身障害児福祉財団父母連絡会議等への参加
- (4) 社会福祉法人日本肢体不自由児協会
「第 31 回日本肢体不自由児・者の美術展」開催への協力
●運営委員会、審査会への参加ならびに全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会賞の授与
●12 月頃、東京芸術劇場で常陸宮殿下のご臨席のもと表彰式および作品鑑賞
- (5) 日本肢体不自由教育研究運営委員会および大会への参加
- (6) その他
●各地区主催の肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会・校長会合同研究協議会への参加
●関係団体の記念行事等の参加

6. 関係友好団体への後援等

7. 表彰者の確認、顧問の推薦

8. ≪全国大会 開催ブロックの予定一覧≫

23 年度	(関東・甲越) 神奈川大会 主管校：神奈川県立麻生養護学校	(北海道・東北) ↓ (関東・甲越)
24	(中部) 長野大会 主管校：長野県稲荷山養護学校、 花田養護学校	↓ (中部) ↓ (近畿)
25	(近畿) 和歌山大会 主管校：和歌山県立南紀支援学校	↓ (中国・四国) ↓ (九州)
26	(中国・四国) 愛媛大会 主管校：愛媛県立しげのぶ特別支援 学校	
27	(九州)	
28	(北海道・東北)	

平成 24 年度 会計予算

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

〈収 入〉

(単位：円)

項 目	23 年度予算	24 年度予算	摘 要
前 年 度 繰 越 金	2,076,236	1,928,198	
会 費	7,254,400	7,240,000	207 校分担金(400 円× 18,100 人児童生徒数)
J K A 補 助 金	774,000	600,000	(財) J K A (大会特集号の補助)
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,220,000	別紙内訳
寄 付 金	0	0	
雑 収 入	600,000	700,000	保険手数料、オムツ手数料、利子等
合 計	11,924,636	11,688,198	

〈支 出〉

項 目	23 年度予算	24 年度予算	摘 要
会 議 費	800,000	700,000	大会 30 万、総会、役員会、その他会議
研 修 費	1,100,000	1,100,000	大会 60 万、大会参加費等、関係団体研修大会参加費等
会 報 費	2,000,000	2,000,000	104・105・106(総会)・107(40 万大会)・108 号
分 担 金	139,000	139,000	推進連盟、日肢協美術展、日肢研
渉 外 費	100,000	100,000	他団体祝い金、周年行事出席、香典等
地 区 助 成 費	480,000	480,000	80,000 円× 6 ブロック
交 通 費	400,000	500,000	研修大会等交通費、一般交通費
通 信 費	1,000,000	1,000,000	電話、郵券、会報発送費、振込み料等
事 務 局 運 営 費	3,200,000	3,200,000	事務室使用料、事務作業費等 〈かたつむり〉派遣支払い
国 庫 事 業 補 助 費	1,220,000	1,220,000	別紙内訳
事 務 用 品 費	330,000	330,000	封筒、消耗品、事務関係全般・他
備 品 費	500,000	300,000	パソコン関連(メンテナンス・修理含む)・他
雑 費	50,000	50,000	貸し金庫使用料・他
予 備 費	605,636	569,198	
特 別 会 計	0	0	
合 計	11,924,636	11,688,198	

平成24年度 国庫補助事業内訳

項 目	23 年度予算	24 年度予算	実施予定ブロック
保 護 者 研 修 会	30,000	30,000	本部
	30,000	30,000	中国・四国
	30,000	30,000	東京
ボ ラ ン テ ィ ア 研 修 会	40,000	40,000	北海道・東北
	40,000	40,000	九州
親 子 ふ れ あ い キ ャ ン プ 療 育 事 業	350,000	350,000	北海道・東北
	350,000	350,000	関東・甲越
	350,000	350,000	九州
合 計	1,220,000	1,220,000	

《長野大会宣言文》を渡しました

長野大会終了後の9月7日に文部科学省と厚生労働省へ坂ますみ新会長と杉野学全肢長会長と全肢P連事務局長佐竹が訪問し、各省の課長さんへ坂ますみ新会長からお渡しすることができました。



特別支援教育課 大山真未課長へ



障害福祉課 土生栄二課長へ



障害者雇用対策課 山田雅彦課長へ

大会宣言文

現在、我が国においては、障害者権利条約の締結を目指し、障害者制度の集中的な改革が進められています。平成23年7月には障害者基本法が改正され、全ての国民が共生する社会を実現するため、障害者の自立と社会参加や支援を力強く進めることが明確にされました。教育については、障害者が能力や特性に応じて十分な教育が受けられるようにすることが引き続き示されるとともに、可能な限り障害のある子どもと障害のない子どもが共に教育を受けられるよう配慮することが規定されました。

文部科学省では、この間、中央教育審議会に「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」を設置し、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムの在り方について検討し、平成24年7月23日に中央教育審議会初等中等教育分科会報告として公表しました。全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会は、文部科学省の要請を踏まえて、代表を委員会に送るとともに、積極的に意見を表明するなど審議に協力して参りました。

報告では、インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズに最も的確に応える指導の提供が求められており、特別支援学校を含む多様で柔軟な教育の場を用意しておくことが必要とされています。

また、就学相談・就学先決定の在り方に係る制度改革の実施、教職員研修等の充実、環境整備などに財源を確保して取り組む必要が示されています。

特別支援学校は、インクルーシブ教育システムの理念を尊重しつつ、これまで以上に一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育を充実させることが求められています。特別支援教育の充実がインクルーシブ教育システムを推進する大きな力になるものです。

私たちは、障害のある人もそうでない人も支え合う、共生・協働の社会の実現に向け、PTA活動に取り組んで参ります。

本年、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会ならびに全国特別支援学校肢体不自由教育校長会は8月19日・20日・21日の3日間、長野県において、PTA・校長会合同研究大会『長野大会』を開催し、「肢体不自由の子どもたちの一人一人の生きる力を育むために、PTA活動はどうあるべきか」を主題に研究協議を重ねました。

本研究大会において、共通理解に至った以下の重点事項を挙げ、関係機関が一致協力し、すべての子どもたちの幸福な未来を実現していくことを、ここに宣言いたします。

- 乳幼児期から生涯に渡り、教育・福祉・医療・労働等の各関係機関が協力し、子どもたち一人一人のニーズに応じた「個別の支援計画」を作成し、計画の実施、評価を通して、障害の重度・重複化、多様化に対応する特別支援教育の充実を図っていきます。
- 障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ機会を増やし、居住地での小・中学校との交流及び共同学習を推進し、地域生活の基盤づくりを進めていきます。特に、居住地の小・中学校との交流及び共同学習を推進します。
- 医療的ケアを安全に実施するため看護師の適切な配置を進めるとともに、介護職員等が一定の条件の下でたんの吸引等が実施できる(平成23年6月、社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正)制度の活用を図り、子ども達の教育を支えるため医療的ケアを充実させていきます。
- 障害のある子どもが等しく教育を受ける権利を確立するために、義務教育国庫負担制度及び特別支援教育就学奨励費制度の堅持・充実とその財源の確保を求めていきます。
- 特別支援学校は、その専門性を活かし、近隣の幼稚園や小・中・高等学校への相談支援や巡回指導などのセンター的機能の充実を図っていきます。
- 特別支援教育の一層充実を図るため、特別支援学校等の教職員の専門性の向上を図ります。このため、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所との連携を推進します。また、OT・PT・ST等の外部専門職との連携を進めます。
- 障害のある子どもたちが利用できる、放課後等デイサービス、児童発達支援センター、児童発達支援事業所等の整備を進め、医療的ケアの必要な障害児も地域で安心して生活ができるよう、事業を拡充していきます。
- 卒業後の自立や社会参加に向けて、自立支援協議会の活用を図りつつ、相談支援事業を拡充し、就業や日中活動へ通う障害者のグループホーム・ケアホーム等の生活の場を確保します。
また、労働関係各機関等と連携を図り、生徒の就業を促進していきます。
- 各種支援機器や情報コミュニケーション技術等を活用し、肢体不自由のある子どもの学習と生活の支援の充実を図ります。

- 公共・民間の施設・交通機関のバリアフリー、ユニバーサルデザインを活用した建物や設備の整備が進むよう働きかけていきます。
- 自然災害等に備えて、学校、家庭、関係機関と連携・協力し、総合防災マニュアルの策定をはじめとして、地域社会において障害のある子どもがいついかなる時も安全・安心して生活できるよう必要な施策の実現を働きかけていきます。

平成 24 年 8 月 21 日

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会
全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

〈新規加入校紹介〉

瀬戸市立瀬戸養護学校(さくらんぼ学園)

「支え合い」共に歩む

本校は平成 22 年 4 月に人口約 133 千人の愛知県瀬戸市が設置した、特別支援学校(肢体不自由)で本年度は小学部、中学部、高等部合計で 46 名が在籍しています。

本校の開校により、これまでスクールバスで 1 時間以上かけて愛知県立小牧養護学校まで通っていた瀬戸市、尾張旭市、長久手市の児童生徒及び保護者の通学にかかる負担が大幅に軽減しました。

本校は本年度開校 39 年目の瀬戸市立萩山小学校と建物(体育館、特別教室等)を共有し、授業を行っています。地域の小学校と特別支援学校が同じ校舎に設置されている学校は全国的にも少なく、愛知県内では初めてです。

この環境を「本校の強み」として生かし、瀬戸市内の学校が一堂に会して行う文化祭「まるっとせとっ子祭り」の音楽会で萩山小学校と合同演奏の発表を行ったり、小学校、中学校と共に地域にある公園の清掃活動に参加したりして交流教育を進めています。

また、地域の防災訓練に P T A と児童生徒、教職員が参加したり、市内の小学生、中学生、高校生、地域の高齢者等地域の幅広い年齢層が参加する「ポッチャ大会」を主催したりし、地域に密着した学校として歩みつつあります。

開校当初から、地域の社会奉仕団体や公共施設、事業所等と連携し、児童生徒の体験的な学習や見学等を通して、将来、児童生徒が地域で活躍する姿を見据えたキャリア教育を積極的に推進しています。

一人一人の教育ニーズに応じた教育をさらに進めるため、整形外科医、理学療法士、作業療法士等と連携し、現職研修に努めています。夏季休業等長期休業中には「iPad を使ってみよう!」「口腔ケアについて」など、校内で多くの研修を他の学校の教職員や保護者にも公開して実施し、特別支援教育のセンター的機能を発揮するよう努めています。

開校 3 年目の本校ですが、校訓にある「支え合い、活動的に、今を生きる」児童生徒の姿を日々の授業の中で具現化し、「共生社会」の実現に向け、更に地域社会の理解が深まるよう、さらに地域に根差した学校、地域と共に歩む学校を目指して参ります。今後とも御指導、御支援をお願い申し上げます。

(教頭 鵜飼 博)

神奈川県立岩戸養護学校

「自立」と「社会参加」をめざして

本校は海と山に囲まれた自然豊かな三浦半島のほぼ中央部に位置し、平成22年4月1日に開校しました。統廃合によって休止施設となった高校の旧校舎を利用し開設され、神奈川県立では唯一の高等部課程のみの特別支援学校となっています。肢体不自由教育部門、知的障害教育部門が併置されています。横須賀・三浦・逗子市、葉山町、横浜市金沢区在住の生徒が在籍しています。

「キャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの『自立』と『社会参加』を実現する」ことを教育目標とし、「ニーズに応じた指導と支援」「障害のある生徒のキャリア教育の推進」「就労に向けた学習の充実と卒業後の定着支援」「地域資源との連携による自立活動等の充実」「安全と健康を守る教育環境の整備」に取り組んでいます。

肢体不自由教育部門には幅広い教育的ニーズを必要とする生徒が在籍しています。専門家の支援による自立活動の充実を図る一方で「職業」の学習も行っています。また知肢併置校の利点を活かし、週2回行われる部活動や「職業」の授業等で知的障害教育部門の生徒との交流が日常的に行われています。年間に2～3回行われる校内実習でも一緒に活動をしている生徒も複数います。

本校PTAは開校年に発足しました。活動の中心となる役員や各種委員はクラスの代表から選ぶという方法ではなく、すべて立候補で決定するという活動への意欲があふれた形となっています。夏季休業中の余暇活動や学校祭では、生徒や来校者に好評なプログラムを提供しています。また、本年2月には障害理解を進めるための公開研修会を開催し、全県下から300人を上回る方々に参加をいただきました。まだ3年目ということで初めて運営する行事なども多く、活動の多くは手探りの段階ですが近隣校の実践を手本として本校らしい活動を積み重ねてきています。

来春いよいよ知的障害教育部門最初の卒業を迎え一つの区切りがつきますが、将来にわたって障害児の「自立」と「社会参加」を実現するために努力して参りたいと考えております。

(校長 永合秀行)

埼玉県立蓮田特別支援学校

「地域に根ざした特別支援学校づくり」

—埼玉県下初の病弱・肢体併置校のスタート—

本校は本年度創立36年を迎えた特別支援学校です。設立以来、隣接する独立行政法人国立病院機構東埼玉病院に入院又は通院している児童生徒を対象に、病弱特別支援学校として一人一人のニーズに応じた教育に努め、多大な成果を収めてきました。こうした中、本校は近年、入院生の減少に伴い、本年度から県教育委員会の施策(特別支援学校の教室不足解消事業)により、新たに「肢体不自由教育部門」を開設しました。

現在、本校は児童生徒数64名(肢体40名、病弱24名)、教職員82名体制へと学校規模が拡大され、活気がみなぎっています。5月24日(木)には県教育委員会・保護者との連携のもと、「肢体不自由教育部門開設記念式典」を盛大に開催し、地域に根ざした特別支援学校として広く県民にアピールしました。

新たな学校としてスタートし、早くも半年が経過しました。この間、児童生徒は本校の充実した施設設備のもと、これまでの実績ある教科指導や自立活動を踏まえ、①ICTを積極的に活用した授業、②キャリア教育に基づく進路指導、③支援籍学習・共同学習など小中高等学校等との積極的な交流、④地域の教育力を活用した農業体験学習など、本校の特色ある教育活動に熱心に取り組んでいます。このような中から、児童生徒一人一人は、多くの仲間との交流を図り、制定した校訓である「明るく・心豊かに・夢の創造」に向けて、持てる力を最大限に発揮しています。

また、本校PTA活動においても肢体不自由教育部門の開設により変化を遂げています。昨年度までは会員数不足からPTA活動の縮小を余儀なくされていたが、本年度より会員数増大から、①本部役員及び理事の体制、②3つの専門部体制(文化・進路・広報)など、PTA組織や事業内容の見直しを図り、活性化に繋げています。本部役員や理事の中には役員経験者も多数見られ、PTA総会以降、主体的・創造的な動きを持って積極的に取り組んでいます。

終わりに、本校は本年度より新たな会員校として加入させていただきました。これからは伝統と実績あるすばらしい全肢P連の活動を視野に、埼玉県下初の病弱・肢体併置の特別支援学校として邁進していく覚悟です。

(校長 片山利明)



スーパーBIGテープ・パンツにぴったりサイズのパッド

スーパーBIG 安心吸収パッド

- ①スーパーBIGにすっぽり収まるサイズだから、スキマができず、モレ安心。
- ②全面通気性シート採用で、ムレ軽減。お肌さらさら！
- ③うす型なのに安心の2回吸収
(※1回の吸収量を120ccとした時)
- ④気になるニオイを軽減！消臭機能付き。

GOO.N スーパーBIGをご購入ご希望の方へ

- インターネットで「グーン」と検索！
または <http://www.babygoon-n.com/> へアクセス。
- ご購入「エリエールオンラインショップ」ページからお申し込み

※ご購入は、お電話でも受け付けています。
フリーダイヤル 0120-888-571 (株セイノー商事) 受付時間：平日9:00～17:00
電話でのご注文の際には、「全国肢体不自由特別支援学校」である旨を伝えてください。

大王製紙(株)は全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会の全国大会に広告協賛しています。

大王製紙株式会社 <http://www.elleair.jp/>

事務局移転のお知らせ

＝編＝集＝後＝記＝

当会の事務局は長年にわたり、関係団体でもあります。全国心身障害児福祉財団内に事務局を置いて活動してまいりました。しかしながら、昨年の震災以降に実施された福祉財団ビルの耐震検査の結果、耐震強度不足が判明し、建物は危険な状態であることから、平成25年までに解体することが決まりました。

これを機に8月26日に新宿区西早稲田から港区芝大門にあります民間のビルに移転いたしました。

部屋が広いと、全国特別支援教育推進連盟とNPO法人ことばを育む会と合同で借用しております。

(新住所)

〒105-0012

東京都港区芝大門1-10-1

(全国たばこビル内6階)

TEL：03-6721-5710

FAX：03-6721-5711

JR浜松町駅から徒歩7分、地下鉄大門駅から5分、御成門駅から3分

当会の会報は、(株)イント・コーポレーションの福祉情報冊子「アイムファイン」との合併をしています。

今年の発行回数は合併号が3回、総会報告と大会報告集と合わせて、年5回の発行となります。今回の会報106号は加盟校にお渡しする総会報告の為、従来通りの様式でお届けしています。

今年度の総会は、8月19日に長野県において滞りなく開催されました。

全国各校のPTA会長さんや校長先生方には、総会の開催ならびに運営に大変ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

また、全国から積極的なご出席がありましたことも、皆様のご配慮と感じました。誠に有難うございました。

《事務局長 佐竹京子》